

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北関東)	◎	家電量販店（店員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍で、巣籠り需要が継続しており、今月も前年比で2けた伸びている。特に、パソコン、冷蔵庫、洗濯機、エアコンが好調に推移している。
	○	一般小売店〔青果〕（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除され、3月に入ってから多少は良くなった感じである。
	○	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・婦人、紳士、子供等の衣料品部門は、引き続き低調である。店全体では、食品とリビング部門が上向いてけん引し、やや良くなっている。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・1月の緊急事態宣言時と現在を比べてみると、新型コロナウイルス疲れなのか分からないが、若年層の客が増えている。
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響もあると思うが、今月に入って3週間ぐらいは3か月前より客の動きが良くなっている。コンビニでは、おにぎり等の商材は人の動きに敏感に動く。前週、前々週、土日の朝の動きは悪かったが、この3週間、朝のおにぎり等の動きは平年並みに戻ってきている。人の動きが活発化することで、景気も上向きになりつつある。
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年比で売上92%、来客数88%、客単価104%で推移している。1日当たりのマイナスは4万円と、1～2月と比べて、マイナス幅が縮小している。特に、夜の客の戻りが顕著である。
	○	家電量販店（店長）	販売量の動き	・東京オリンピックの動向によって、大きく変化する。今後の動きに期待している。
	○	乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・自動車販売が過去3番目くらいの好調である。サービス部門の修理も好調に入ってきている。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・1人1000円以上で500円引きという市独自の飲食店応援キャンペーンが始まり、客が殺到している。
	○	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・少人数だが、宴会や飲み会が増えてきている。数日先の予約問合せも増加傾向である。
	○	スナック（経営者）	来客数の動き	・自粛要請が明け、来客数が少し増えている。しかし、報道等にもあるように、客は、まだ外で飲食することに自粛ムードで、余り変わらないようである。
	○	都市型ホテル（副支配人）	来客数の動き	・宿泊は徐々にではあるが、団体予約等も入ってきている。料飲部門は、ディナータイムの集客は見込めず、相変わらず厳しい状況が続いているものの、ランチタイムは戻ってきている実感がある。
	○	旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・県独自の宿泊割引キャンペーンの開始により、来店者数ゼロの状況は回避されるようになっている。
	○	通信会社（経営者）	お客様の様子	・暖かくなって、緊急事態宣言も解除されたため、消費はやや良くなっている印象である。
	○	通信会社（総務担当）	販売量の動き	・3月が販売のピークのため、3か月前よりは増えている。ただし、前年同月比では減少している。
	○	設計事務所（所長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染に注意しながら、経済活動が動き出しているように感じる。
□	商店街（代表者）	お客様の様子	・卒園、卒業式の訪問撮影数に変化はないが、来店での撮影数は激減している。	
□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・天候が良くなり、花も満開になってきている。浮かれて段々人が出てきているが、なかなか景気の高揚にはつながらない。東京オリンピックの聖火リレーも始まったが、見るだけで精一杯である。	
□	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・3か月前の12月を前年売上と比較すると達成率は40%台であった。今月は、前年は既に新型コロナウイルス禍で、一昨年は改装工事で半月しか営業していなかったため、前々年度と比較したが、同様に売上達成率は40%台である。1都3県の緊急事態宣言が3月21日をもって解除されたが、人出はその前週から徐々に増えてきている。	

□	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・前年は既に新型コロナウイルスの影響下にあったこともあり、前年実績の確保はできている。食品関連の大型物産展等、来客数、売上共に非常に好調な部分もあるが、依然としてアパレルの不振は継続しており、厳しい状況に変わりはない。
□	家電量販店（営業担当）	お客様の様子	・営業に制限があるなか、最低限の設備投資をしている状況である。補助金等を活用している。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車、中古車の販売が、粗利益は別としても前月並みを維持している。また、整備売上も前月より15%ほど伸びており、全体では微増である。
□	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・売上が全く悪いわけではないが、例年3月のような勢いはない。1～2月がそこそこ良かったものの、3月初め辺りから、ムードが少し静まり始めている。
□	その他専門店 〔靴小売業〕 （経営者）	来客数の動き	・前年3月頃から新型コロナウイルスの影響を受け始め、売上が半分になった月との比較では、今月は5%ほど増加しているものの、比較にならない。客は買物に向いておらず、いまだに経済も上向きになっていない。
□	一般レストラン（経営者）	競争相手の様子	・同業者と話しても、皆、不安や不満ばかりで、良くなったというような明るい話題はない。
□	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	販売量の動き	・レストラン部門は、テイクアウトや配送等の取組はしているものの、外出自粛の意識が重しとなって、来客数に戻りがみられない。事業所給食は、出張や研修の自粛、リモート活用等が定着してきており、施設単位でみると、提供食数がやや減少した状況が続いている。
□	都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・歓送迎会や謝恩会のシーズンだが、忘新年会に続き、大人数での会食は自粛のため、皆無である。個人利用は少しづつ動き始めているものの、全体としてはいまだ厳しい。
□	通信会社（局長）	競争相手の様子	・携帯電話の新料金プラン登場によって、固定回線の競争も激化していく。
□	競輪場（職員）	お客様の様子	・入場者数、購買単価共に、ほぼ変化がみられない。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・原油価格の上昇が製品価格に転嫁されれば、金利は上がり、景気低迷するコストプッシュ型インフレが懸念される。
□	その他サービス 〔自動車整備業〕（経営者）	来客数の動き	・車体整備、ぼん金塗装の受注が激減しており、前年比50%を切っている。
□	設計事務所（所長）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたが、人の動きはまだ鈍く、景気回復とはいえない状況である。建設は、公共事業の受注で売上を維持している。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・ここに来て、アパートの動きが大分目立ってきている。転勤等の時期なので、仕方がない。また、店舗は、飲食店関係の引き合いは全くないが、物販店の会場については、ちらほら引き合いが増えている。
▲	スーパー（商品部担当）	お客様の様子	・売上は、前年比だと新型コロナウイルス禍による特需が始まった時期になるので、一昨年と比較すると102%である。地域支援事業のサービスが前月までで終了したと同時に、買上単価が下がり、価格を重視する客が多く見受けられる。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で外出機会が減り、いわゆる「お出かけ着」の購入が減っている。
▲	住関連専門店（仕入担当）	単価の動き	・新型コロナウイルス禍による消費への影響から、丸1年経過し、前年度の特需で前年比が大きくマイナスとなっているカテゴリーと好調が継続しているカテゴリーが相殺し合い、ややマイナスの側面が多く始めている。特に、消耗品を中心に、価格訴求の傾向が強まり、単価の下落につながっている。
▲	その他専門店 〔燃料〕（従業員）	販売量の動き	・毎月、業務用の使用量が大きく減少している。
▲	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・従来の案件がほとんど出てこない。やや悪い状況だが、若干はバス旅行の動きが回復傾向である。

	▲	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言解除後も、大きく変化はしていない。巣籠り需要効果はあるが、通常の消費はまだこれからである。
	▲	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・問合せはあるものの、取引の動きは鈍い。成約に至る物は少ない。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍で影響を受けている業種は、かなりたくさんある。飲食業だけではないのに、余りにも不公平過ぎる。このままでは、飲食店以外で倒産する会社が出てくる。
	×	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が解除されても、やはり、リバウンドを警戒する客が多く、来客数が増えてこない。
	×	衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・当店の顧客は高齢者が多いこともあり、新型コロナウイルスの影響下で、ほとんど街に出てきていない。緊急事態宣言解除後も同じような状況で、来客数の動きが本当に悪く、日に日に悪くなっていく実感がある。このままでは店の存続もかなり厳しい。
	×	住関連専門店（店長）	それ以外	・飲食店を中心に、時短営業で店舗を閉める比率が高くなっている。廃業もやむを得ないひっ迫した状態である。
	×	都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスによる不景気からの復活が全く見えない。既に1年以上、耐えに耐えて、もう限界を超えた限界であり、地獄の毎日である。
	×	旅行代理店（所長）	来客数の動き	・地域の新型コロナウイルス感染状況は落ち着いているものの、首都圏の感染状況には収束がみられず、逆に増加傾向になっており、厳しい状態が続いている。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・県外から人が来ないと仕事がない。緊急事態宣言が解除されても、街なかにはひっそりとしている。タクシーの利用客は、非常に少ない。
	×	タクシー（経営者）	お客様の様子	・昼も夜も人の動きが悪く、前年同月と比べて20%の減少である。
	×	タクシー（役員）	それ以外	・国の新型コロナウイルス対策は、度が過ぎるほど、いい加減で、どうしようもない。今後、税金は一切払いたくない。
	×	通信会社（経営者）	販売量の動き	・地方での新型コロナウイルスの影響は鎮静化せず、いまだに当社顧客である飲食業や小売業等の動きは皆無である。
	×	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・年末からの新型コロナウイルスの感染拡大第3波による緊急事態宣言発出の影響から、来客数が大幅に減少し、Go Toキャンペーンの効果が全て帳消しになっている。
企業 動向 関連 (北関東)	◎	—	—	—
	○	金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・3月末の受注は2月末の3割増となっている。ただし、3月は月内注文が多かったため、4月も同様かは分からない。
	○	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・取引先の様子や受注量等が5割減くらいだったのが、最近では3～4割減ほどまで徐々に回復してきている。
	○	建設業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・公共工事主体で売上の95%を占める建設業を営んでいる。前与党政権誕生後、公共工事は順調に推移し、現政権でも順調に推移している。今期の公共工事は前年比14.8%増と順調で、当社も前期比10%増の受注がある。特に、県関係が前年比37.3%増だが、これは令和元年秋に発生した大雨による災害復旧工事に起因している。
	○	司法書士	受注量や販売量の動き	・ここ1～2か月は少し良い状態が続いているが、それほど良いわけではない。当地域でもう3か月ほど新型コロナウイルスの感染者が1人も出ていないという点も、良い方に作用しているのではないか。
	○	社会保険労務士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響を大きく受けていた業界も、多少良くなってきている。
	□	化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末の需要増を期待していたが、低調に推移しているものの、落ち込むほどでもなく、変わらない。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ここ2～3か月は、前年と比べて上向きである。

